

# 立川歌

12

立川と語ろう 立川に生きよう  
December 2004  
écoutez bien Vol.23 No.241



# 発ガン抑制効果の高いアブラナ科

## 【カリフラワー】

アブラナ科はいちばん野菜らしい野菜といえる。体を護るファイトケミカルをぎっしり詰めた宝箱。なかでも白い花野菜、カリフラワーは消化吸収がよく美肌を保つすぐれもの。

ほのかに甘く、サクサクホロホロと舌触りが独特的なカリフラワー。ブロッコリーの抗ガン作用は有名だが、カリフラワーも劣らない。イオウ化合物をはじめさまざまなファイトケミカルが、がん細胞の増殖を抑えたり発ガン物質の毒性を失わせたりと体の中で大活躍だ。今回はカリフラワーを、子供からお年寄りまで楽しめるグラタンにしてもらった。「おいしい生鮭も入れると、味のアクセントにもなるしタンパク質も摂れるでしょ」と、いつもながらあつという間に作って下さった須田亨子校長。先生が作るとなんでも手軽に見えるから不思議だ。

台風の多い今年、砂川の農家ににうかがうと、たわわに実ったキウイ。この時期に収穫し、保冷庫で追熟して半年間くらいかけて出荷する。「風や雨には比較的強いんです。そのかわり5月の受粉時に雨が多いと実りに影響がありますよね」と豊泉豊さん。砂川で17代目くらいになる。サラリーマンをやめてお父さんのあとを継いだ。キウイを始めたのは昭和50年代で、日本でも早い方だったとか。

西砂町の間野日出男さんはキウイの他にリンゴも作っている。リンゴはそのままはもちろん、刻んでサラダにするとおいしいし、ジュースは最高だ。二人の息子さんが後を継いでいる。庭に干してある胡麻の話になると顔がゆるんだ。「うちの奥さんは赤飯を作るのがうまくてよ、赤飯もうまいんだけど胡麻の香りがな、売ってるのとは全然違うんだよ。うどんも好きで食べるんだけど、胡麻がうまいから……」。初冬の立川はおいしいものばかり。



これから保冷庫で追熟して出荷される



間野日出男さん  
(西砂町)



豊泉豊さん (砂川町)

調理指導：須田亨子（日本クッキングスクール）

写真：五来孝平

### ●カリフラワーのグラタン

体も心も暖まる一品です。

#### レシピ

**材料** (4人分)

カリフラワー 1個 (300～400g)	バター 大さじ2
生鮭 200g	小麦粉 大さじ3
塩 小さじ1/5 こしょう	牛乳 2カップ
〔白ワイン・水 各大さじ1	塩 小さじ1/2
〔ロリエ 1枚	白こしょう 少々
しめじ 100g	生クリーム 1/4カップ
	白こしょう 少々
	チーズ・溶かしバター

#### 作り方

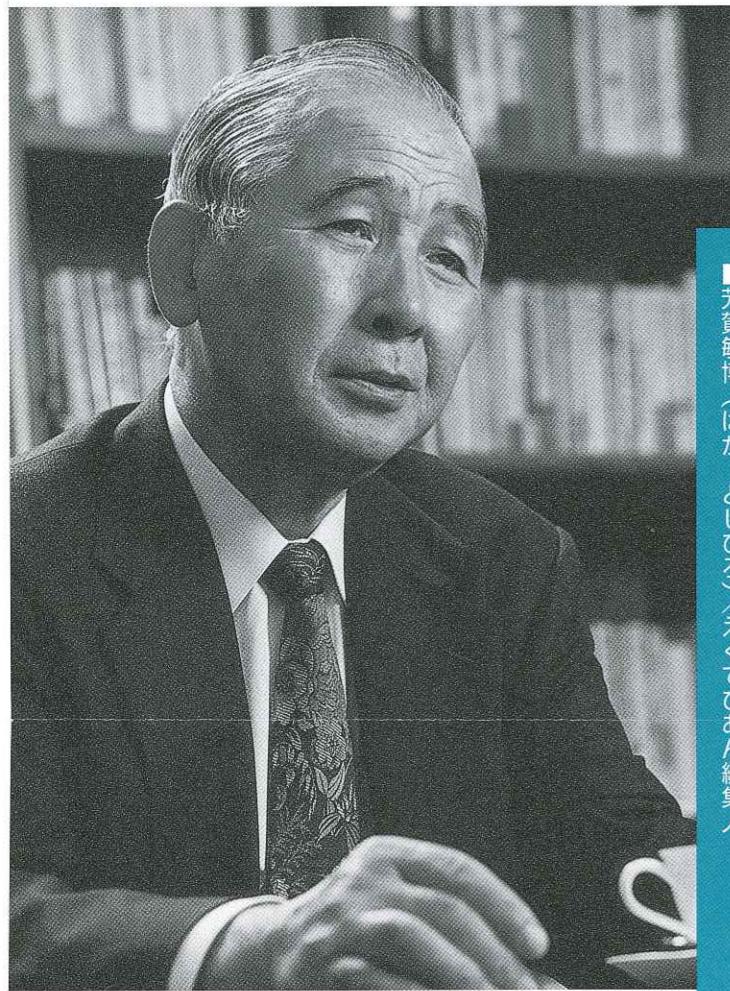
- カリフラワーは小房に分け熱湯に塩、酢少々を入れて固めに茹でる。
- 鮭は一口大に切り、塩、こしょうして10分くらいおき、〔A〕をぶり2～3分蒸し煮にする。
- しめじは小房に分け、さっとサラダ油でソテーする。
- 鍋にバターを溶かし小麦粉を加えて弱火で3分くらい炒め、牛乳を加えてまぜ、塩、白こしょうをしてとろみがつくまで煮て、生クリームを加える。
- グラタン皿にバターをぬり〔4〕のソースを少し敷き、〔1、2、3〕を盛り残りのソース、チーズ、溶かしバターをかけて200°Cのオーブンで7～8分焼く。

#### メモ

ほうれん草、ブロッコリー、かき、白身魚など、オーブントースターでも焼ける。

# 砂川を日本のふるさとにつみたい

立川市文化協会会長  
**柴俊男さん**



於：えくてびあん編集工房 写真：五来孝平

■ 柴俊男（しば・としお）／昭和11年（1936）茨城県生まれ。高校卒業後東京に移り、結婚を機に砂川に定住。公務員として勤めながら自治会活動などを通じて地域づくりにかかわり、環境保全や伝統文化の継承などで幅広く活躍。地域の親子三世代が参加する「なんでも遊び塾」の推進役でもある。平成14年（2002）より立川市文化協会会長。

■ 芳賀敏博（はが・としひろ）／えくてびあん編集人

**芳賀** 柴さんは玉川上水の清掃や、プールで子どもたちにヤゴをとってもらいたいトボに育てるヤゴ救出作戦、くるり棒を使った伝統的な麦打ちなど、本当にいろいろなところでお目にかかります。そして立川市文化協会会長でもいらっしゃる。よくこんな幅広くなさっているな、いつも思うんですよ。

**柴** そんな。大それたことはしてないですよ。どれも砂川という地域にある自然や文化という資源の活用なんです。昨年から子どもの居場所づくり事業として「なんでも遊び塾」というのを年間20回開いていますが、ヤゴ救出作戦、ホタルの観察、くるり棒を使った農業体験、玉川上水の自然観察、手打ちうどんや焼きいも、まゆ玉作り、野草料理……。どれも地域にある自然や、伝統的な生活文化、

食文化でしょ。

**芳賀** そうか！柴さんの文化活動には、すべて砂川という地域性が濃密にある。**柴** 文化は高尚なもの、遠くにあるものではなく、人々の心や暮らしを豊かにしていく社会的な役割を持っている。その意味で、地域の文化活動は地域づくりなんです。文化協会の会長も二期目に入りましたが、今年は皆さんに文化活動の新しい役割として、各分野でボランティア活動に取り組む方向を呼びかけています。

**芳賀** そういう柴さんだから、生まれも育ちも砂川？

**柴** 家内は地元ですけど、私は茨城の生まれ。昭和36年に結婚するとき、長女でもあるし砂川に住んでほしいというのでやってきて以来です。都庁の行政職だったので、毎日バスで立川駅に出て中央

線で有楽町まで通って。けっこう大変でしたよ。

**芳賀** 勤め人をしていると地域にかかわる機会がなかなかないですよね。地域にここまで根っこを張って活動するきっかけがあったんですか。

**柴** 昭和40年代末から50年代にかけて行われた地名地番整理かな。われわれの砂川三番組自治会が200世帯ほど上砂町に分離されてしまうので大反対し、7年もストップしていたんです。それが54年の暮れに、二期目を目指していた当時の市長さんが、原案通り整理を進めると宣言した。初当選した時は強行しないと約束してわれわれも応援したのに、どうしてだと詰め寄ったら「市長になってみたらそういうわけにはいかない」と。私は一番若い副会長でしたから、怒りましてね。「記者会見を開いてそんなことでは市長候補としてふさわしくないと言うぞ」と息巻いたんです。年が明けてみると、次の自治会長をやれと推されました。

**芳賀** いちばんやっかいな時の会長さんだ。

**柴** 誰がやっても微妙な役割ですからね。しかし誰かがやらなければならないのなら私のような立場の人間がやるもの一つの方法かなと引き受け、市長の理解と地元の方たちの協力もあり結局就任から1カ月で最小限の分離で済むように線引きを変えるところまで詰めた。役所で業界指導をしていたのも役立ちました。自治会長は本当に勉強になりましたが、おかげで有給休暇を全部使ってしまって（笑）。2年で辞めさせてもらいましたけど、あの時の市長の一言がなかったら、ずいぶん違う人生になっていたでしょう。

**芳賀** それなら、その市長さんに感謝しなくちゃ（笑）。生活スタイルの変化や新住民の増加で地域の人の結びつきが希薄になったり、身近な自然や伝承文化が

消えています。そういう時代だからこそ、地域にこだわる活動はすばらしいと思いますよ。

**柴** 「なんでも遊び塾」は、自然とふれあうことで子どもが人間性豊かに自ら生きる力を身につけることを目的にしていますが、柱のひとつは三世代交流です。どうしてかというと、今の子どもたちのお父さんお母さんの世代も自然体験をしたことが多い。生活技術や地域文化を引き継いでいくには、おじいちゃんおばあちゃん世代の知恵や経験が必要なんです。同時に、そうしたことを通じておじいちゃんと孫がふだんとは違う会話ができる。子どもたちと接していく分かるのは、大人が上からああだこうだと言い始めたとたんに興味を失うということです。子ども自身が気づいたり発見すればだまっていても伸びていきます。大人の役割はきっかけを作ったり支援することなんですね。そのためにも、地域全体で子どもたちがもっと身近に自然に接しながら遊べるようにしたい。私はそれを「ミニ里山」と言っていますけど……。

**芳賀** 僕は東北の田舎育ちですから分かりますよ。遊び場といったらその辺の用水路とか池、神社の裏の杜、草ぼうぼうの空き地でした。虫を捕ったり魚をすくったり秘密基地をつくったり。

**柴** 砂川の農家は五日市街道沿いに細長い短冊形の土地があり、通りに面して作業場を兼ねた庭と納屋、続いて母屋があって裏に竹やぶ、防風林、畑、その奥が雑木林のヤマという構造です。肥料や生産物がその中で完結する非常に効率的な生産システムが出来上がっていました。そのあちこちで子どもが遊びました。ところが今は池や川の回りは柵やフェンスで囲われ、畑でも遊べない。昔の自然そのままとはいかなくなっています。

くとも、学校や公園にクヌギ、コナラなどの樹や野草を植えて四季の変化のある里山ができないか。今、日産村山工場の駐車場跡地の管理を市から受託して手作り公園にする活動を仲間としていますが、もっと増やしたいですね。

**芳賀** 僕は玉川上水沿いの緑道が好きでよく歩きますが、いちばんの魅力は里山の雑木林の雰囲気が残っていることですものね。

**柴** 玉川上水も都の水道局がフェンスで囲んでから住民とのつながりが途切れ、一時は大量にゴミが捨てられていました。なんとかしようと生まれたのが「玉川上水の自然保護を考える会」です。住民が上水の清掃をしたり、都が機械で根こそぎ刈っていた草刈りを抑えてもらって野草を植え、樹名板をつけたり巣箱をかけて、この12月で15周年を迎えます。上水への住民の愛着も深まり、活動を通じた人の輪が広がりました。だから「なんでも遊び塾」のような事業もできた。こういう人の輪自体が地域づくりだと思うんです。

**芳賀** 砂川の試みが、立川のみならず日本のふるさとのモデルになるといいですね。

**柴** そう、ふるさとづくりなんですよ。「ああ砂川でよかったな」と思えるような。われわれの年代の人間には、自分たちがその中で育ってきた自然豊かなふるさとへの思いがあります。それを可能な限り再現して子どもたちに引き継ぎたい。残堀川を水辺に親しめる川にする、古残堀川の水路を変更して玉川上水の助水路としてつくられた旧残堀川の復元、そうしたせせらぎに螢を呼び戻す……夢はいろいろあります。住めば都ではなくて、住んだからには都にする、というつもりでやらなくてはね。

柴 崎 町	とんかつ専門 かつ亀	柴崎町3-5-2 525-7647
	西武信用金庫 立川南口店	柴崎町3-5-15 529-1311
	多摩中央信用金庫 立川南口店	柴崎町3-5-22 528-2211
	サンカメラ	柴崎町3-7-22-2F 522-3336
	Coffee Shop LARGO	柴崎町3-7-22-2F 525-6704
	パッケージプラザ カサイ	柴崎町3-8-7 522-8601
	りそな銀行 立川支店	柴崎町3-10-1 522-4161
	手打ち ぎょうざ工房	柴崎町3-11-25 522-4770
	こむろ酒店	柴崎町3-14-3 522-2613
	喫茶 ギャラリー花	柴崎町3-14-6-1F 524-3668

富士見町	矢沢歯科眼科	柴崎町3-16-2 525-6600
	株式会社 京王ストア 立川店	柴崎町3-18-10 540-1131
	ジャガー立川	柴崎町6-15-23 524-5859
	NPO法人 東京賢治の学校	柴崎町6-20-37 523-7112
	株式会社 浅見酒店	富士見町1-2-7 522-2823
	伊藤接骨院	富士見町1-4-29 524-7861
	手作りケーキの店 プティパニエ	富士見町1-22-30 529-8364
	(株) 山田電機	富士見町1-24-9 526-1044
	株式会社 ダイクマ 立川店	富士見町1-24-9 526-1046
	井上レディスクリニック	富士見町1-26-9 529-0111

富士見町	えくてびあんの輪	立川と語ろう 立川に生きよう えくてびあんは リストのお店にいつもあります
	今月は 柴崎町・富士見町・砂川町・柏町のお店です。	
	中華レストラン 東華園	富士見町1-27-10 529-0458
	榎本調剤薬局	富士見町1-31-18 526-2322
	うさぎ専門店 ラッキーラビット	富士見町2-11-7 524-6054
	一級建築士事務所 株式会社 ホーミー	富士見町2-12-3 522-2220
	家庭料理の店 つくり	富士見町2-12-10 526-6016
	有限会社 白洋舎	富士見町2-24-16 522-5952
	波多野米店	富士見町2-32-34 522-2884
	桜井電材株式会社	富士見町3-2-13 523-5281

砂川町	立川歴史民俗資料館	富士見町3-12-34 525-0860
	室内装飾専門店 株式会社 アイアイ	富士見町4-9-8 522-5972
	多摩中央信用金庫 富士見町支店	富士見町4-9-22 528-1741
	酒 ESPOA おぎの	富士見町4-17-7 522-4500
	株式会社 一如社	富士見町2-1-9 527-2211
	株式会社 立川印刷所	富士見町5-6-15 524-3268
	SHOP99 立川富士見町店	富士見町6-15-3 540-1799
	JA 経済センター 立川店	砂川町2-44-3 536-1824
	JA 東京みどり 立川支店	砂川町2-44-3 536-1821
	多摩中央信用金庫 砂川支店	砂川町4-2-3 535-4411

柏町	スリランカレー アジアンフーズ	柏町1-13-9 535-0876
	山梨中央銀行 立川支店	柏町1-16-1 536-0871

# サンタの灯りが やってきた

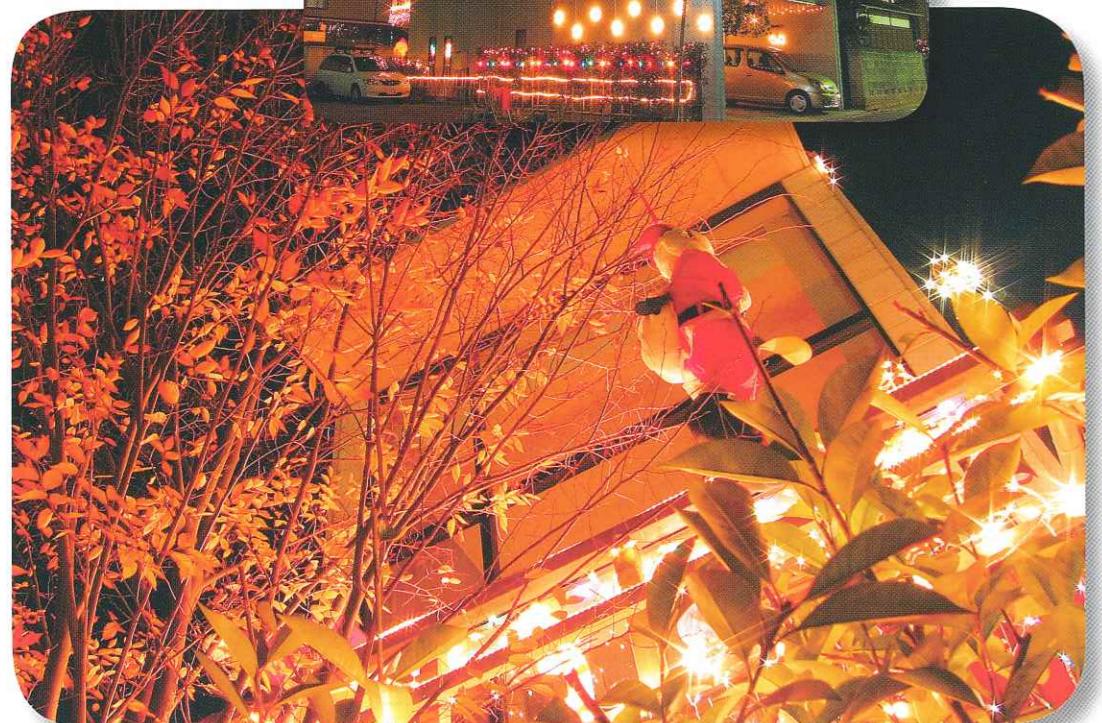
## モノレール沿いのクリスマス

毎年11月半ばになると点灯されるイルミネーション。  
凍てつく夜、窓から溢れる暖かな光は、家路を急ぐ人の足を止める。  
柴崎町の風物詩となった〈加藤さんちのクリスマス〉。

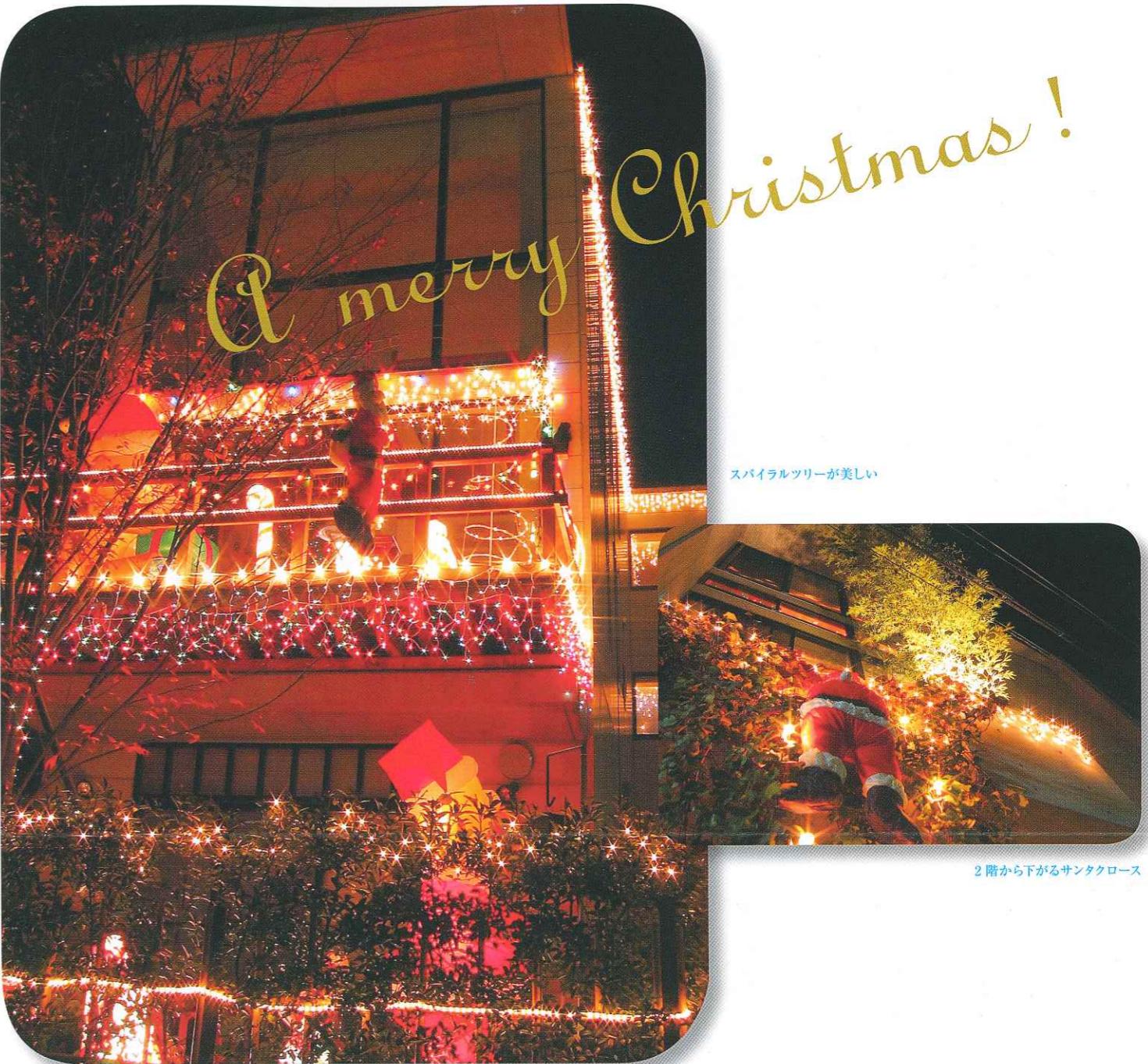
写真提供：加藤愛寿美さん



ベランダに見える  
青い目のサンタクロース



庭の木にぶら下がるサンタクロース



スパイラルツリーが美しい

2階から下がるサンタクロース



人に見せようと始めたわけではなかった。夫の誕生日を祝おうと幼い娘と飾り付けを始めたのがきっかけで、今年18年目を迎えた。ハロウィンの装飾を片づける頃には、加藤家のリビングはクリスマスアイテムでいっぱいになる。

今年はどんな風に飾ろうかと構想を練り準備する。「家族のために始めたんだけど、今では多くの方から楽しみにしてるって言わっちゃうんです」と、準備から片付けまですべてをこなす奥様の薰さん。

自分には自分なりのコダワリがあるとおっしゃる。「お花だってそうじゃないですか。いっぱい飾ればいいってもんじゃない。色とかバランスとか、できあがりの全体図を想像しながら、位置を決め色合いを考えるんです」。配線には気を使う。ごちゃごちゃと見えないように。隠して束ねるにもビニールひもや針金は使わない。麻ひもなどを使ってあくまでも美しく。それが加藤流。

「うちは三世帯じゃなくて三世代家族なんだよ。家族の幸せが溢れ出たようなクリスマスイルミネーションだよね。通る人にその暖かさが伝わればうれしいよね」とご主人の加藤恵司さん。やさしい家族の協力があって、今年も美しく点灯される。

クラシックの樂器という印象が強いバイオリンも、タンゴやジャズに転じれば、情感を豊かに奏でる樂器となる。立川をはじめ都内のライブハウスで活動する女性ジャズバイオリニストである。バイオリンを始めたのは4歳の頃から。鷺見三郎氏、宗倫匡氏に師事し96年から演奏家として活動。ジャズだけでなくタンゴ、ポップスなど幅広いジャンルで、ライブハウスやダンスホールでの演奏のほか、テレビ、FM、イベントなどで活躍している。華奢でエレガントな宇野さんの弦と弓から、ときに優美に、ときに激しく、人の心を動かす音楽が奏でられる。

国営昭和記念公園で 写真:細江英公

## かたこと

気がつけば、今年最後の「えくてびあん」です。聞いただけでなんだか懐ただしい気分になってしまふ師走です▼冷たい木枯らしに急き立てられて歩いていると、すっかり暗くなった街にクリスマスのイルミネーション。思わず立ち止まって小さな光の群れを見ていると、胸の中にも温かい灯が点るようです▼<VIEW>で紹介している柴崎町・加藤さんのお宅のイルミネーションは、個人の楽しみというレベルを超えた見事なもの。ご家族の喜びを通りかかった人と分かち合う心は、まさにメリーカリスマス!です▼対談をさせていただいた立川市文化協会会長の柴俊男さんは、玉川上水の清掃・環境保全やプールに産みつけられたトンボの幼虫=ヤゴの救出作戦など、身近なところで多彩な活動をなさっています▼砂川地域の伝行事や食文化、ミニ里山づくり……どれも根っここのところに、次の世代に豊かな自然と文化を伝え残したいという熱い思いがあります▼夏の猛暑に統き、台風や地震、熊の被害なども多い年でしたが、異常気象や災害に地球環境や自然の荒廃が影響しているといわれます。立川という小さな地域の活動とはいえ、地球規模で求められている課題につながっているのではないでしょうか▼少し早いですが、一年間ありがとうございました。皆さま良いお年をお迎え下さい。(芳)

スタッフ  
編集 大久保清志/清水恵美子/中薫子  
デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES)  
AMNET design factory  
写真 五来孝平

## えくてびあん(C)12月号

第23巻 通巻241号  
平成16年12月1日発行  
発行 えくてびあん編集工房  
〒190-0012  
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F  
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065  
編集人 芳賀敏博  
発行人 加賀悦也  
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

## タチカワ誰故草 ⑯

# 戦車とクリスマスブーツ

森 忠明

九月二十四日、立川市市民会館大ホールで櫻井よしこ氏の講演を聴いた。女史は本邦青少年の学力低下を嘆き、「フランス革命」とロシア革命の違いを知らない京大生」とか「日本とアメリカが戦争したことを見らないばかりか『どっちが勝ったの』と訊く始末」など、なきない実例をいくつか挙げると、多くの聴衆から苦笑が漏れたが、私はついこのあいだまでの自分のことを言われたみたいで恥ずかしかった。昭和三十年四月、立川二小に入学するまで敗戦を知らなかつたし、あの二つの革命の違いは高一まで知らなかつた。拙宅近くの大通り、現在の昭和記念公園通りを東から西へ、凄まじい音と地響きを立てて数台の米軍戦車が通り過ぎてゆくのを、全身悚然として見つめていた私は、小学二年生くらいいだつたか。日本人のおじさんたちが舗装したばかりの道路を、怪獣的タンクのキャラクターは非情に蹂躪。アスファルトをまるで浜辺の砂のように蹴散らかして去つた。森少年はその時初めて(ぼくはあいつらに負けた國に生まれたんだ)と悟つた。以来半世紀、テレビ画面の中、イラクの米軍戦車を見るたびに、あの日の轟音と地響きと怖悸を思いだす。

やはり小学生の頃。今の北口公衆便所があるあたりに拡声器を設置した建物があつて、「リンゴワカワゴトタベマシヨー」。女声の、なんだかいつも説教くさく、たどたどしい日本語の放送が流れていった。父母にも誰にもあれは何者が行つていてか質問せずに、私は勝手に進駐軍と呼ばれる連中の仕事にちがいないと決めつけていた。そして、(戦争に負けると林檎の食い方まで指図されるのか)と、内心舌打ちしたのだった。

「森チャンが曙町の神童で、物覚えがいいのも認めるけど、もしかするとその戦車は自衛隊のだつたかもしれないし、拡声器の放送は市役所か警察関係のだつたかもね。ちゃんと調べていたほうがいいよ。澤芳徳氏に電話、私の記憶をチェックしてもらつたら、そんなコメントが返ってきた。有難いものである。悪童時代を含めて五十余年の付き合いは徒爾ではない。彼は日本交通のベテラン運転手で、人間心理や社会情勢への透視力は超凡のデブス。私の浅慮や愚行を窘めてくれる。彼を主人公にして創作した『どこかぼちや戦争』(俊成出版社)は、日本一売れない童話作家である私の本としては珍しく良く読まれている。「オレも森チャンと同じ時分だぜ、日本が負けたんだって知つたのは。ほら、ベースのメインゲートンとこの、でかいヒマラヤ杉の下にさ、軍用トラックが来て、クリスマスブーツつてのをタチカワ市民にばらまいたる。子ども心にも負けた国民は哀れだなーと思つたよ、ギブミー、ギブミーってさ」。



挿画:野崎義成

## えくてびあん流

# 立川には“ストリート”がよく似合う 12月19日に「まちおん」ライブ



モノレール下にオカリナの音が流れます

夜、JR立川駅から続く南北の歩行者専用デッキなどで音楽を演奏する若者やグループに出会いながら演奏者のマナーを基盤にく立川スタイル>というべきストリート演奏を定着させようと立川ストリート市民会議が発足、「まちおん」の愛称で12月19日、高島屋前でライブコンサートを開く。

西洋音楽も日本の伝統芸能も、多くは祝祭の場や路上、河原など野外で生まれた。音楽に限らず、通りすがりの人の耳や目を引き止めるのは芸能の原点。立川の街を歩けば音楽に出会い、そこから若い才能が巣立っていく。こういう夢は実現させたい。

## この人この店 ⑯

### 手打ち蕎麦 なかさと

店主 中里 幸一さん



もり 680円 そばプリン 470円  
〒190-0022 立川市錦町1-5-22 西野ビル1階  
TEL 042-524-5758 営業時間 11:30~14:00  
17:30~20:00 定休日 毎週月曜日

写真:五来孝平



## 常樂我淨

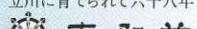
真如苑提供番組

スカイバーフェクTV 216ch、マイ・テレビ 84ch

土曜 午前9時~9時15分  
午後7時15分~7時30分  
再放送/火曜 午前9時~9時15分  
午後7時45分~8時

放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十八年



真如苑

柴崎町1-2-13 Tel.527-0111(代)



## パレスホテル立川

〒190-0012 東京都立川市曙町2-40-15

お問い合わせ、ご予約は

TEL 042-527-1111

FAX 042-527-5169

<http://www.palace-t.co.jp>



## 私たち「と」のための会社です。

人と人、企業と企業、企業・商店とお客様……いろいろなコミュニケーションがあります。

私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、行なっている会社です。



大廣社は、企画デザインから  
印刷加工まで自社内で行っています。



PLANNING-DESIGNING  
PROCESSING-PRINTING

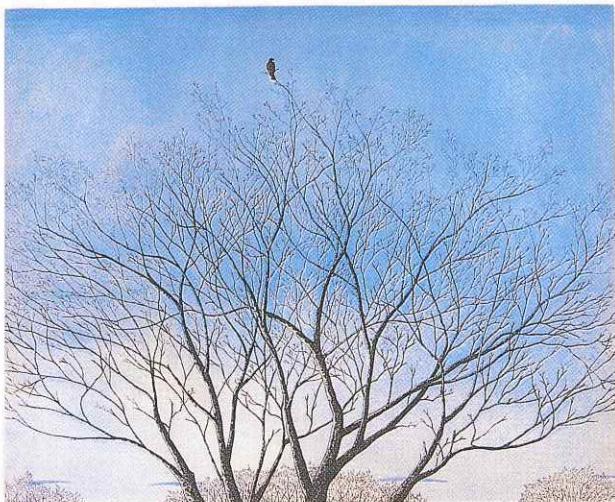
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13

FAX 042-527-1949

E-mail info@daikousya.jp

# 郷愁への旅

## 乗兼広人 銅版画 [5]



「早春(薄暮)」

1991年 50.0×41.0cm 4版4色

先日、久しぶりに安曇野まで取材に出かけた。松本から単線の大糸線に入り南小谷までは特急あずさで行ける。南小谷はJR東日本とJR西日本の境界でもある。電車とディーゼルカーがはじて走り、小さなプラットフォームに長い長い貨物列車が停まる。日本列島のほぼ中央を縦断する重要な鉄路の割にひなびた雰囲気がある。

久しぶりの安曇野は、すっかり開けて第二の軽井沢化してしまっていたが、道野辺のそここに残る道祖神の優しさが新鮮に眼に映った。

掲出作は、1990年代に取材の途中で出会ったケヤキの巨木である。大糸線沿いに白馬から大町あたりを歩き疲れ、ふと見上げると冬枯れた枝の端に鷹が二羽とまっていた。刻々と暮れていく中、夢中でスケッチした。描き終わつたとたん一気に寒気が身にしみて、あわてて近くの温泉に飛び込んだ。

下から見上げた樹木という構図は、釣りの賜物。向に釣れないときに地面に寝転んで、覆いかぶさった樹の枝の面白さに惹かれた。今も、自宅近くにある三本のスズカケノキ、「篠懸三兄弟」を制作している。